

# 半導体漫遊記

50

## 湯之上隆

滞在できる時間(無減圧潜水時間という)が間から、水深と潜水時間がある。例えば、12mで200分、121mで50分、30mで25分というように。

二つ目はデジカメである。これはフィルムカメラでは絶対に不可能に印刷もできる。さらこうして誰もが簡単に水中カメラマンになれる時代がやってきた。今や水中カメラを

11月末に、沖縄・慶良間諸島の阿嘉島にダイビングに行ってきた。今年3回目の阿嘉島である。1回目の3月末は、台風坊主・ニンガチカシマイのせいで2日も日程が短縮された。2回目の8月初旬は、台風直撃が予想されたため、阿嘉島に着いた翌日には那覇に戻らねばならなかった。

私がダイビングを始めたのは1988年2月。今年で24年を超え

無減圧潜水時間を知られる。そして、水深を代時には、水中で撮れるには、ダイブズウ変えると、それに適する写真の枚数(せいぜい36枚)に限度があっ

## ダイビングのイノベーション

# PC、デジカメで快適

この間、ダイビングのスタイルを変えるイノベーションが二つ起きた。

一つ目はダイビングコンピュータの登場(写真)。ダイビングでは減圧症と呼ばれる潜水病を回避するため、水深ごとに安全に

測り、水深計で深度を測り、ダイブテーブルと呼ばれるデータ表を調べることが必要である。か深計もやこしいダイヤテーパーも一切必要は、メモリ容量が一杯になるまで、果てしなく撮影を続けることができる。その上、水中で撮った写真をその場で確認することができ

今回は3度目の正直。まずまずお天気に恵まれ、阿嘉島4泊で合計10本のダイビングを楽しむことができた。やれやれ。

一つ目はダイビングコンピュータの登場(写真)。ダイビングでは減圧症と呼ばれる潜水病を回避するため、水深ごとに安全に

測り、水深計で深度を測り、ダイブテーブルと呼ばれるデータ表を調べることが必要である。か深計もやこしいダイヤテーパーも一切必要は、メモリ容量が一杯になるまで、果てしなく撮影を続けることができる。その上、水中で撮った写真をその場で確認することができ



た。今や水中カメラを持たないダイバーの方が珍しい。

これら二つのイノベーションを支えているのは半導体技術である。ダイビングコンピュータの中には、ダイブテーブルのデータを格納する半導体メモリと、無減圧潜水時間を計算するプロセッサが入っている。デジカメの撮像素子はイメージセンサーという半導体素子で、写真データを保存しているのはNANDフラッシュという半導体メモリである。

二つのイノベーションにより、ダイビングはますます快適になり、楽しい趣味になってきた。(半導体技術者・社会学者)